

## 平成 27 年度 記者懇談会（第 1 回）の記録

日 時 平成 27 年 4 月 27 日（月）午後 3 時 30 分  
場 所 水道庁舎 4 階会議室  
記者数 9 人  
同席者 天野副市長、総務部長、企画財政部長、環境部長、建設部長  
次 第 1 平成 27 年度 工事発注計画について  
2 クリーン・グリーン作戦 2015 の開催について  
3 平成 26 年度 除排雪事業と雪対策の状況について  
4 その他について

### 1 平成 27 年度 上半期工事発注計画について

#### 説明内容

##### （市長）

本日の案件でございますが、まず 1 点目の「平成 27 年度の工事発注計画について」でございます。

平成 27 年 4 月 20 日に内閣府が発表した月例経済報告では、「景気は、企業部門に改善がみられるなど、緩やかな回復基調が続いている」と示されております。

一方、北海道の経済動向においては、全体的に緩やかな持ち直し基調が続くなか、個人消費は持ち直しの動きに弱さがみられ、公共工事も弱めの動きとなっております。

また、岩見沢市の経済情勢におきましても、依然として厳しい状況が続くものと予想されます。

このような状況を踏まえ、本市は、地域経済を支え活力を維持するため、また地域の雇用対策といった観点からも、市民生活の基盤を支える公共事業に係る予算を積極的に確保させていただいております。

はじめに、工事費についてであります。平成 26 年度補正予算と平成 27 年度当初予算を合わせた中で、投資的経費、これは普通建設事業費を確保しておりますが、その予算のうち、今年度発注を予定する工事費については、一般会計、特別会計ならびに企業会計を合わせて約 66 億 5,700 万円となっております。

その内訳は資料にも記載してございますが、一般会計は、約 45 億 6,600 万円、特別会計は、約 1,100 百万円、企業会計は、約 20 億 500 万円、そして昨年度予算の繰越予算分は、約 7,500 万円となっており、平成 26 年度の 79 億 4,200 万円に比較いたしますと、12 億 8,500 万円、16.2%の減少となっております。

工事費の主な増減でございますが、3 か年事業として実施しておりました、新ごみ処分場建設に係る工事が完了し、これが約 33 億円でございます。当初発注予定額は、前年度と比較いたしますと大きな減となりましたが、南小学校、東小学校、幌向小学校の校舎等の耐震化が 7.8 億円、栗沢栄団地の建設が 3.5 億円、栗沢支所新庁舎の建設が 3.2 億円、であえーるの第 1 ポルタビルの改修が 6.8 億円といった新たな工

事を予定しており、市民の安全・安心な暮らしや、子ども・子育て支援の充実、地域経済の活性化に取り組んでまいります。

次に、上半期の工事発注率であります。今年度につきましても地域経済の活性化の観点から、できる限り早期の発注に努めるものとし、4月から9月まで上半期に発注する工事費の目標額は、設計額ベースで総額 約 6 1 億 3, 0 0 0 万円、工事発注率 9 2. 1 % を目標にしております。

この発注率は、昨年、平成 2 6 年度の目標値 9 1. 5 % と比較すると 0. 6 ポイントの増となっており、引き続き 9 0 % を超える高い発注率を目標といたしまして、市民生活の基盤を支える意味からも、工事の早期実施を通じて地域経済への波及効果が発揮されるよう、この数値を可能な限り達成することによって、雇用・景気対策に努めていく方針でございます。今年度は統一市長選挙の年でもありますので、市でもできる限り早期発注に努めていきたいと考えております。

### **質疑応答**

#### **(北海道新聞)**

4 月から 9 月までの発注計画の 9 2. 1 % は、経済効果を波及させる意味で集中して 9 0 % 以上を発注してしまおうということではよろしいでしょうか。

#### **(市長)**

冬期の問題もありますが、岩見沢市は例年上半期に集中してできるだけ発注率を高めていくという工事発注をやっておりますけれども、特に今回は地域経済の活性化や選挙の関係で発注も遅れてくるという状況もございますので、早期発注として昨年度よりも 0. 6 % 高めた、9 2. 1 % を目標としているところでございます。

#### **(プレス空知)**

去年の上半期の計画の 9 1. 5 % に対して実績の執行率はどのくらいだったのでしょうか。

#### **(企画財政部長)**

9 0. 5 % です。

## **2 クリーン・グリーン作戦 2015 の開催について**

### **説明内容**

#### **(市長)**

それでは、2 点目の案件に入らせていただきます。「第 2 5 回利根別川クリーン・グリーン作戦 2 0 1 5 の開催について」でございます。

春の恒例のイベントとして、「利根別川をきれいにする市民の会」と「岩見沢市」が共催で今年も実施をしてまいります。

概要でございますが、資料に記載してありますとおり、5 月 1 6 日土曜日の午後 1 時 3 0 分から「はぎぞの緑地」において「開会式」であるセレモニーを行なった後に、引き続きまして、A コース、B コースの 2 つのコースに分かれて、「はぎぞの緑地」から「ガーデンテラス」まで、利根別川沿いの清掃と散策を行うこととしております。

清掃終了後におきましては、ガーデンテラスにおいて、緑陵高校吹奏楽部による「クリーン・グリーンコンサート」を開催いたします。

また、ガーデンテラスでは、5月16日土曜日と17日日曜日の2日間にわたりまして、「花と苗木のマーケット」を開催いたします。花の苗、苗木、ガーデニング用品などの販売、今年は市民の皆さまによりますリサイクルマーケット、フリーマーケットを開きます。さらには、花苗や肥料などのプレゼントも予定しております。

協賛事業といたしましては、いわみざわ公園の室内公園「色彩館」の温室は16日、17日の二日間は無料、北海道グリーンランドにおきましては、16日土曜日ですが、岩見沢市民の入園料が無料となっております。

平成3年から始めたクリーン・グリーン作戦、このイベントも25年継続することができまして、春の訪れと言いますか、春の風物詩の一つにもなってきたのかなと思っておりますので市民の皆さんの多くのご参加を期待しております。

#### **質疑応答**

なし

(市長)

ちなみにですね、今年からごみの有料化が実施されておりますので、ごみ袋につきましては、燃やせるごみ用と燃やせないごみ用のボランティア用の袋を用意して清掃活動にあたっていただくことにしております。

### **3 平成26年度 除排雪事業と雪対策の状況について**

#### **説明内容**

(市長)

それでは3点目でございます、「平成26年度における除排雪事業と雪対策の状況について」でございます。

はじめに、この冬の降雪状況でございますが、3月31日までの累計の降雪量は5m2cm、昨年は6m85cmでございましたけれども、平年を大きく下回り、平成20年度以来、6年ぶりの5m台となりました。

その要因でございますが、11月に降雪が無かったこと、2月の降雪量が観測史上2番目に少なかった、月36cmということであったり、さらには3月の月平均の気温が観測史上最も暖かかった、月平均2.5℃というようなことなどが挙げられます。特に2月から3月にかけて雪の少ない穏やかな日が多かったシーズンでありました。

一方、最大積雪深でございますが、平年並みとなります1m21cm、これま平年値1m23cmでございますので、最大積雪深1m21cmを1月4日に記録したところでございます。

次に、除排雪についてでございますが、2月の降雪量が少なかった影響で、雪割ですとか吹飛ばし、肩積の作業が、昨年と比べますと85.1km減の、延べ105.6kmとなりまして、運搬排雪も昨年比52.8km減の、延べ151.7kmという実績でございました。

また、除排雪に要した費用でございますが、年始めには2日、3日、4日の3日間で86cmという集中的な降雪がありまして、1月30日には市議会臨時会の開催をお願いいたしまして、3億1,000万円の補正予算の追加をさせていただきましたが、結果といたしましては、3億2,500万円ほど執行せずに、この冬の事業を終えることができる見込みとなっております。

そのほか、要望、苦情などの件数や自主排雪の実施延長、各雪堆積場に搬入された雪の量なども、この冬の少雪傾向を受けまして、それぞれ昨年より少なくなっているところでございます。

なお、資料にはお示しておりませんが、今年の冬は、市街地の排雪を効率的に行うために、国や道の協力を得まして、利根別川消流雪事業を1年ぶりで実施いたしました。

昨年はちょうど桂沢ダムのかさ上げ工事の関係で実施できなかった訳ですが、今年度は利根別川消流雪事業を実施いたしました。

実施期間は1月下旬の21日から30日にかけての、そのうち8日間、排雪延長にいたしまして約6.7km、雪の量にいたしますと約1万5,000立方メートル、ダンプトラック約千台分という実績になってございます。

資料の次のページでございます。除排雪事業以外における雪対策の状況をまとめたペーパーでございます。

まず、高齢者や障がいを持った方々への対応についてでございますが、この冬も1月2日から4日の大雪を受けまして、8日と9日の2日間で対象となります2,545世帯の調査と、現地で除雪の支援を行ったところでございます。

次に、高齢者世帯等雪下ろし助成についてでございますが、平成26年度より、利用しやすい制度とするため、助成対象の拡充を図ったところでございます。

例えば、障がいのある方がいる世帯につきましては、従来の「重度障がい者のいる世帯」から、「障がい者手帳を保有している方がいる世帯」に要件を緩和したところでございます。

また、高齢者の世帯につきましては、平成25年度までは対象外としておりました「市内に子が居住している世帯」や「入院等で不在の世帯」も新たに対象としたところでございます。

要件的には3件あるのですが、それを緩和した結果、登録件数につきましては昨年より59件増え、220件の登録があったところでございます。ただ、少雪の影響もありまして、助成した件数につきましては、昨年の84件より17件少ない67件という実績でございます。

また、弱者支援といたしまして社会福祉協議会で実施していただいております除雪ボランティアにつきましては、団体登録が増えておりまして、延べ支援世帯が41世帯、昨年の8世帯と比べると33世帯増えている状況でございます。

そのほか、雪下ろし安全装備の貸出数、空き家対応の件数等につきましては、やはり少雪の影響から、昨年の冬よりは減少している結果となったしだいでございます。

最後になりますが、雪による人的被害についてでございますけれども、大変残念なことながら軽傷を含む人的被害の合計は、昨年度の33人から19人と減ってはおり

ますが、平成26年度は、残念なことに、雪下ろし作業中に1名の方がお亡くなりになられるという、死亡事故が1月4日に発生しております。

### **質疑応答**

#### **(読売新聞)**

少雪ということなんですけれども、決算の見込みですが、昨年と比較するとどれくらい低い、少なくともすむのかということと、少雪だった割にはケガ人が少ない割には重傷者が多いというのはどのような理由が考えられるのかの2点をお伺いします。

#### **(市長)**

決算見込みなんですけれども、昨年度は設計基準降雪量を6m50cmから7mに引き上げ、労務単価の引き上げや燃料単価の引き上げがございます。さらには、標準機械の見直しを行いましたので、実働に基づいた機械の設計となっておりますので、一概には比較できないのですけれども、決算ベースでお話いたします。

#### **(建設部長)**

同じ条件であれば、同じような経費のかかり方だったと思います。今、市長がお話したように、労務単価ですとか機械の仕様の変更などがございましたが、仮に変更がなかったとすれば経費にそれほど大きく影響はないと思います。

#### **(市長)**

平成25年度の9月予算で労務単価の引き上げがあったので、1月の補正前ですけれども、1回引き上げておりますが、確か約8.6億円です。平成26年度予算については、先ほど申し上げた4点について見直しをかけているので、平成26年度9月の補正では11.9億円で3.3億円くらい増えており、当初予算の本格シーズンに入る前の段階で、それくらいの予算の構えをとったということです。それに2月、3月、4月の平年どおりの降雪状況を見込むと必要とする額として3.1億円を11.9億円に加えた15億円の予算を構えたのですけれども、結果としては3億2,500万円余るといって、11億7,500万円くらいの決算状況になるのかなと思います。

それから、人的被害ですが、雪下ろしの作業中の事故が重症化するケースが多い、平成23年の豪雪の時には、確か業者の方も含めて雪下ろし作業中に3名の方が亡くなったかと記憶しているのですけれども、平成26年度の冬も雪下ろし作業中に亡くなった方がいらっしゃるということで、雪下ろし作業は危険を伴うため、安全装具の貸出しですとか、講習会などの開催などを行っているところですが、気象状況や物理的な要因で増えたというものではないのかなと考えているところでもあります。雪下ろし作業は危険が伴うということで、さらに周知をして安全作業については徹底を図っていきたくと考えております。

#### **(読売新聞)**

雪下ろし作業は、雪が多いとやるものだと思いますが、逆に雪が少なくて雪が固いですとかそういうことはあるのでしょうか。

#### **(市長)**

平成25年度の冬だったと思うのですが、安全装具の貸出しをして、装具を付けていて屋根から滑落して、安全装具のおかげで地面に落ちないで、ご自分の携帯電話で連絡をとって救出されたというケースもあるのですけれども、住宅の状況によっては

下が固ければ強い衝撃によって影響を受けるでしょうし、雪に埋まってそのまま見つからずというケースもあるでしょうから、雪下ろしは複数人で実施をするですとか、安全装具を付けるですとか、無理をしないといった対応が必要になります。

## 4 その他について

### 質疑応答

#### (北海道新聞)

昨日市議選が終わりました、2点お伺いします。まず投票率が前回よりも0.2ポイント上がったのですが、前々回と前は東日本の震災の影響も受けて自粛ムードで落ちたと思うのですが、今回はそういった要素がない状況においても投票率が変わっていないということについて、市長はどのように感じているのかお聞きしたい。

さらに、56.76%の低い投票率を岩見沢市としてこれからどうやって、市議会に対して関心をもっていただくか、その点についてお考えがあればお願いします。

#### (市長)

投票率なんですけれども、平成23年の時には54.39%で、今回は若干ではあるんですけれども、0.37ポイント上回って54.76%です。期日前投票がすっかり定着したという関係もあって、投票行動が変わってきたという印象があります。

今回は期日前投票が4月20日から25日までの間に7,900人の方が投票され、前回は4,877人の方でしたのでかなり伸びている。7,900人の期日前投票を投票率に換算いたしますと11%くらいを押し上げるのですが、投票日当日の伸びは少ないまま推移して行って、期日前投票と合わせるとこれくらいの数字になります。投票率自体はもともと上がって行ってほしいと思いますし、行政としては岩見沢市政について市民の皆さまにいろいろ知っていただくことを積み重ねていかなければならないと思います。今回は選挙公報を初めて出しておりますので、選挙に関心を持ってもらうということと併せて地道に取り組んでいくしかないかなと思います。

全国的に投票率が下がっているということは、政治にも関係あると思いますが、岩見沢市も都市部と同様な傾向で下がっているのかなと思います。投票所等については、選挙管理委員会で、より投票しやすい環境づくりについていろいろと協議していきたいと思います。

#### (プレス空知)

前回と比較して、幌向出張所でも期日前投票が増えて、純粹にそこは増えているところかと思うのですが、新たに期日前投票所を増設するというお考えはあるのでしょうか。

#### (市長)

幌向出張所だけで945名が期日前投票され、市役所、北村支所、栗沢支所もそれぞれ増え、1.5倍くらい伸びてきている状況でして、例えば市役所ですと、4,152名が5,948名に伸びています。例えば期日前投票の最終日である4月25日の市役所だけで1,760人の方が投票なさっているのですが、これはもう一つの選挙区並みの数字です。前は不在者投票という制度があって、理由がないとできなかったものが期日前投票に変わって、投票日当日に投票するというのではなく、期日前

のご自分の都合の良い時に投票なさる傾向がはっきり出てきている、そういった意味では、選挙管理委員会でも検討は始まっているとは思いますが、期日前投票所をやりやすい場所で開くということも十分考えられるのかなと思います。

#### **(プレス空知)**

函館では大学で投票所を開いたり、将来、選挙投票年齢の引き下げもあることも考えると、その対象となる方の教育やその人たちが行きやすい場をつくるのも大事なのかなと思います。

#### **(市長)**

そこはもう、検討に入っているのかと思いますが、岩見沢教育大学の場合は、岩見沢にお住まいの方は半分くらいいらっしゃるのかな。大学で期日前投票やるには良いアイデアなのかなと思いますし、若い人たちが身近に投票できやすいのはいいなと思います。今のところ、スペースとかセキュリティの関係でどこでもここでもできるという状況ではないのも事実なので、そういった意味では岩見沢教育大学は選挙管理委員会でも課題としてしっかり検討していただければ良いのかなと考えております。

#### **(北海道新聞)**

話は変わりますが、4月からごみの有料化がはじまって、ごみの量自体は減っているのかなと思いますが、実際どうなのかを教えてください。

#### **(市長)**

ごみの有料化が始まってまだ1か月たっていないのですが、概ねごみステーションでのルールは守られているのかなと思います。ただ、不適正な排出というのが全くないわけではなくて、有料化前に言われておりました不適正排出が増えるのではないのかということについては、収集業者の方にも聞いておりますし、市の車でリサーチに行っておりますけれども、概ね良好な状態で推移しているのかなと思います。ただ、不適正な排出はありますから、特定に努めて指導して、町内会に協力を得ながら引き続き啓発をお願いしていく必要はあるのかなと考えています。4月の15、16、22日に全てのごみステーションではないのですが、地区を決めてパトロールをやっておりますけれども、そのような排出状況となっております。

ごみの量自体は、ざっとですけれども、4月1日から18日までの期間限定ですが、平成26年は燃やせるごみと燃やせないごみの資源ごみを除いた総量は1,474.63トンなんですが、それに資源ごみのプラスチック製容器包装、びん、缶、ペットボトル、紙、危険ごみこれが105.87トンで総量としては1,580.50トンなんですが、平成27年は燃やせるごみと燃やせないごみの総量は1,164.47トンで、資源物が168.49トンで総合計が1,332.96トンですから、燃やせるごみと燃やせないごみの分別のやり方を大きく変えておりますけれども、その比較ではマイナス310.16トン。資源物は逆に増えて、プラス62.62トンで合計ではマイナス247.54トン、ただし、平成27年の燃やせないごみの中には大型ごみが含まれているので、実質的な燃やせないごみ自体は17トンとなっております。

**(プレス空知)**

閉鎖して1か月経った旧処分場の今後の活用と今後の行程を教えてください。

**(市長)**

基本的に埋立をしているエリアについては、適正な覆土をして、安全対策として柵を設けるなどを平成27年度に実施をする予定にしております。

また、一部比較的新しい施設については、市の施設としての車庫や倉庫等としての活用を今考えているところであります。今、埋め立て自体は終わって最終的な覆土作業等をして、今年の秋にはその作業が確定する状況になって、併せて一部フェンスですとか安全対策をしっかりした上で維持をしていくということでもあります。

**(プレス空知) (市長)**

埋め立ての容量はどのようになっていますか。

**(市長)**

残容量については、昨年の秋にご報告した数値よりも若干良い状況で終わるのではないかと考えており、最終的に今年の秋口に最終測定の予定なので、その時点ではつきりすると思えますけれども、残容量が足りないですとか、オーバーすることにはならず、その範囲できちんと処理ができると考えております。

ごみ埋め立て場としての使用は終わりますけれども、出てくる水等の処理については引き続き継続してやっていくこととなります。地盤自体も安定化するには、まだまだ年数が必要ということになるかと思えます。

**(プレス空知)**

市長個人的には、どんなふうに使ってもらえたらいいと考えていますか。

**(市長)**

最低10年後くらいの先の話にはなると思いますが、環境ですとか健康とかというキーワードで使えればなと思いますが、ただかなりの面積がございますからまずは、生活に絶対支障の出ないようなきちんとした安定管理を徹底していきたいと考えております。

**(プレス空知)**

モエレ沼公園のようなかたちは難しいでしょうか。

**(市長)**

地盤自体が一定の工作物を作れる状況にはなかなかないと思います。ただ今までの環境のマイナスのイメージをプラスにできるような使い方というのを考えていきたいとおもいますが、それも10年以上先の話のような気がします。

(注) 記録の内容については、重複した言葉遣いや、明らかな言い直しがあったものなどを整理した上で作成しています(作成:岩見沢市秘書課広報係)。